

暮らす人の安心感と訪れる人の満足感を両立できる都市、島田市を目指します

# 島田市長 染谷絹代

これからも挑戦し続けるまち  
島田市のために

一年半をかけて、全68自治会で対話させていただいた「車座トーク」など、多くの市民の皆様と接してきた中で、日々の生活に対する切実な思いを聞きました。「なんととしても、このまちをもっと良くしたい」この想いを一心に、皆様の声に耳を傾け、市政の屋台骨である市民と行政との信頼を築くことに全力を注いできました。

2期目を迎え、市民の皆様の期待に添えるよう、市政運営に努めてまいります。そして、縮小時代とも呼ばれる現状の中でも、市民一人一人が豊かさを実感できるまちを目指して、これからも挑戦し続けるまち島田市のために、全力を尽くしてまいります。

## Profile

氏名／染谷絹代（そめやきぬよ）

生年月日／昭和29年7月5日（62歳）

住所／島田市船木

経歴／市教育委員会委員長、人材育成支援NPO代表、県男女共同参画センター理事など

座右の銘／春風秋霜（<sup>しゅんぷうしゅうそう</sup>佐藤一斎 言志四録より）  
春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む





5月22日の当選証書付与式



市長と語る会



車座トーク

最大の課題である人口減少  
問題の克服に取り組みます

「世界で経験したことのない、急激な人口減少と超高齢社会の到来という大きな課題をどのように克服するか」その対策に、全国の自治体が知恵を絞る時間を費やして、競いあっています。

当市でも、2060年に8万人の目標人口を掲げた「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。子育てや移住・定住施策、シティプロモーションなど、多様な魅力あふれる事業を展開しています。平成28年度に転入者数がプラスに転じ、県内第2位の移住者を数えたことは、その総合力の成果です。

縮小時代とも呼ばれる今、目指すべき目標は豊かな社会を維持し続けていくことではないでしょうか。これからの行政の役割は、人口が減っていく中で、真に必要なものを見極める能力と、前例に捉われない柔軟な発想力を持つて、市民一人一人の生活の好循環を高めていくことです。

住んでも訪れても良かった  
と実感できる島田市へ——  
人口減少に立ち向かう政策  
として、保育料の二人目半額、

三人目以降無償化について、9月から開始できるよう手続きを進めています。

出生率の上昇のほか、子育て世代の定住と流入増をねらいに、「産みやすい」「育てやすい」子育て世代に優しい施策と既存施策との相乗効果を高めていきます。

また「住み続けたい」施策として、市民の皆様の健康に配慮した医療・介護・福祉を充実させるほか、このまちの環境に配慮する太陽光・小水力・メタンガス発電などの新エネルギーや再生可能エネルギーの活用を促進します。

さらに「訪れたいまち島田を実現する」施策として、蓬萊橋観光物販所の整備をはじめとする、地域経済の好循環を生み出す観光資源の創出を図るとともに、まちの魅力を発信する「島田市緑茶化計画」の浸透を図り、交流人口の増加を目指します。

「挑戦する島田」に必要なのは「継続の力」です——

島田の稼ぐ力の核となる「新東名島田金谷IC周辺整備と賑わい交流拠点整備」、市民の安全・安心の砦となる「新島田市民病院建設事業」がいよいよ動き出し、これか

らの4年間でしっかりと形にします。

他にも、県と連携して活用策を探る旧金谷中学校跡地については、民間事業者を募集する段階にたどり着きました。また、老朽化が進む市役所については昨年度から方向性の検討を進め、おおろりと中央小公園を含めた周辺の一体的整備について、この秋には皆様にビジョンをお示しできるものと考えています。

挑戦し続けるまちのために  
市政を運営します——

「この瞬間にも島田に生を受けた子どもが、ずっと安心して住み続けられるまち」  
「今、このまちに生きる私たちが将来にわたって豊かで充実した生活を送ることができまるまち」これらの願いは、全ての市民の皆様に通じるものではないでしょうか。

私の役割は、安全・安心の上に豊かさを実感できる政策や施策を柱に、きめ細やかな行政サービスを兼ね備えた「挑戦し続けるまち島田市」を実現することです。私はこれから、市民の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、市政運営に全力を尽くしてまいります。

Kinuya Somenya the Mayor